

縮小社会研究会 第 65 回研究会



日時：2022年8月6日19:30～21:00、オンライン開催 (Zoom)

コロナ禍とロシアのウクライナ侵攻（特別軍事作戦）によって世の中は大きく変化している。その情報はマスコミや SNS に依存するが、その認識や評価が人によって大いに異なり、ワクチンを打つ人と打たない人のように人々の間に新たな分断を生じている。まずは、事実の認識が重要である。

認識論の問題として二年半を振り返る

～コロナ騒動・ロシア情勢など～

講師：大谷正幸さん（金沢美術工芸大学教授）

講演要旨： コロナ騒動直前の 2019 年に演者は、ソ連崩壊とロシア再興に関する当会での講演（第 46 回研究会）の中で、プーチン大統領の事業はシュペングラー『西洋の没落』に言うところの「皇帝主義」（文明末期の金権政治への対抗）だと指摘した。そんなヘゲモニー・シフトの時代に課された感染症対策・西側諸国の対露制裁は裏目に出て、今では超過死亡・出生数の低下が観測され、工業部品不足や食料・エネルギー供給懸念から将来不安に怯えなければならなくなっている。失策が行政や「専門家」への信頼を低下させ、マスク・「ワクチン」・露国についての解釈が人々に分断を生んでいる。失望と反目は、協力を促して社会をまとめる源たる相互信頼を蝕む。そこで、「群集心理」等の認識論的知見に触れつつ、「成長の限界」を背景とした覇権に関わる「認知戦」という観点から、この二年半を振り返っておきたい。

大谷正幸さんの略歴：

米農家の長男として生まれ、大学卒業後、兼業農家として北陸製菓中央研究所にて薬物動態学の実務に従事するも M&A の憂き目に遭い、大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。その後金沢美術工芸大学に就職。近著論文に、2000 年来の謎を解いた「ウィトルウィウスの数学謎々」（金沢美術工芸大学紀要）、現代文明終焉の諦観を認めた「文明の冬を越す知恵の種」（全国日本学士会 ACADEMIA）などがある。



zoom の URL: <https://us02web.zoom.us/j/82685914983?pwd=MzNabFV5RVdkjSTRrR090SUd4c01VZz09>

ミーティング ID: 826 8591 4983、 パスコード: 219228

参加費：会員は無料、非会員は 1000 円

参加登録：会員は不要。非会員の方は、peatix から申し込みください。

(<https://peatix.com/event/3298321/view>)